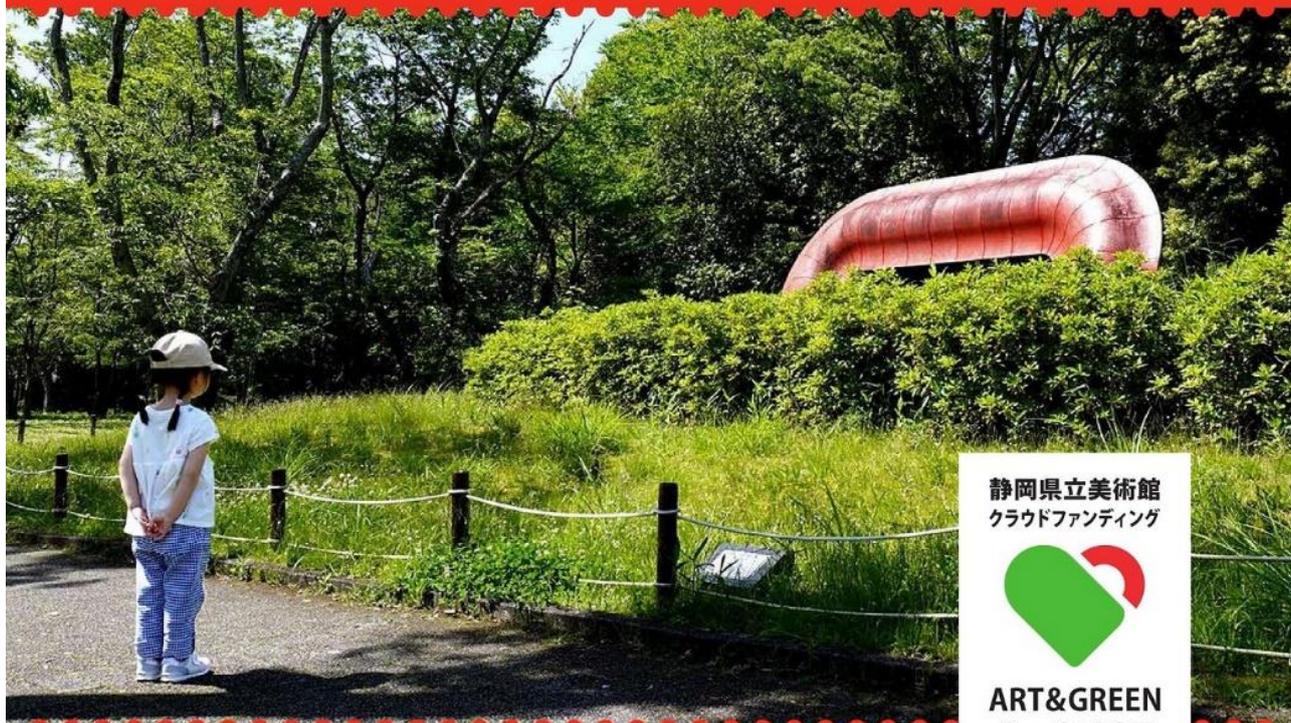


次世代へつなぐ！静岡県立美術館

アートとみどりの散歩道 再生プロジェクト

支援募集

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art



静岡県立美術館
クラウドファンディング



ART&GREEN
Re,StART
project

次世代へつなぐ！

アートとみどりの散歩道 再生プロジェクト

「プロムナード屋外展示のメンテナンスをどうかお願いします。数年前から何となく気にはなっておりました。本日久しぶりに見て悲しくなりました。」

静岡県立美術館では、こうしたお客様のご意見に背中を押されて、このたび、アートと緑の散歩道「彫刻プロムナード」再生のためのクラウドファンディングの実施を決意いたしました。

これまでも美術館は継続的に「彫刻プロムナード」の環境整備や作品の修復に取り組んでまいりました。しかしながら、近年の物価高騰などを背景に、限られた予算内で作品の修繕費をまかなうことが困難になり、草木の手入れも行き届かなくなっています。なかでもとくに損傷が目立つ作品の修復には、専門家の技術と多額の費用が必要です。

開館以来、貴重な彫刻作品と四季折々の花々によって、美術館を訪れる多くの人々をお迎えしてきた散歩道です。その傷んだ作品を再生し、次世代にも楽しんでいただける憩いの場として、さらなる魅力向上に努めたい。

皆様の温かいご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。



ふるさとチョイスGCF

8月2日(金)～10月30日(水) 目標金額 1,000万円

1 概要

静岡県立美術館へと続く、アートとみどりの散歩道「彫刻プロムナード」
そこでは、四季折々の花々とともに、貴重な彫刻作品が、開館当初から世代を超えて訪れた人の目を楽しませています。

しかし、開館から40年が経過し、彫刻の塗装の剥落や腐食、さびなどの損傷が目立ち、草木の手入れも十分に行き届かなくなっています。その修復には、高度な技術と多額の費用が必要です。美しい彫刻プロムナードに当時の姿をよみがえらせ、次世代に受け継いでいくため、皆さまの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



2 貴重な彫刻作品をよみがえらせたい！

彫刻プロムナードの作品は、作品の素材や制作方法によって、メンテナンスの仕方や劣化の進行速度が異なります。今回のプロジェクトでは、特に損傷がひどくなってしまった2点を修復します。

■トニー・スミス《アマリリス》



作品について

彫刻プロムナードの坂道を上りきったところで、美術館の建物と同時に目に入ってくるのが、トニー・スミスの《アマリリス》です。1985年7月25日に、翌年開館する静岡県立美術館のシンボルとして現在の場所に設置されてから、来年で40年を迎えます。同じ形状の幾何学的立体を積み重ねた単純な構造ですが、作品の周囲を巡ると見え方が複雑に変化し、多様な鑑賞体験を生み出します。黒に着色されたスチールに反射する光と影が生み出す効果も鮮やかです。

本作品は屋外で設置されることを意図して作られた作品で、実際、この作品が現在の場所に置かれることにより、前庭と、背後の美術館の建物や周囲の自然とのあいだに調和を生み、印象深い景観を作り上げています。

トニー・スミスとは

アメリカニュージャージー州生まれのトニー・スミス（1912-1980）は、1933-36年にニューヨークのアート・スチューデント・リーグで絵画を学んだ後、1937年にはシカゴのニュー・バウハウスに在籍し、翌年からアメリカの建築家フランク・ロイド・ライトの見習いと、その後2年間彼の助手を務めいくつかのプロジェクトに参加しました。以来、スミスは20年以上建築家として活動しますが、1950年代から、彫刻家に転向し、形態と空間の均衡、幾何学的構築性を追求し、ミニマル・アートの動向を主導しました。

専門家からのご意見 黒川弘毅（彫刻家、保存・修復家、武蔵野美術大学名誉教授）

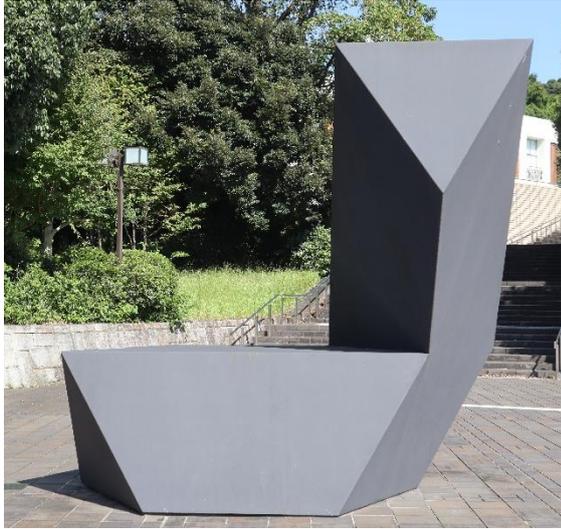
私は30年以上にわたり、彫刻プロムナードの作品群の保存に関わってきました。屋外の過酷な環境に置かれている彫刻作品は、良好な状態を維持するために、コンディションの観察と保守作業を継続的に必要とします。

鉄製の《アマリリス》には塗料が施されています。塗装の更新（塗り替え）をして16年が経過しました。

近年、塗装の劣化が加速度的に進行し、退色により作品の色調は黒からグレーに変わりました（1）。現在、表面を触ると、劣化した塗料が粉状になって指にたくさんにつきます（2）。内角を含むコーナーの多くで、塗膜に亀裂が入ってはげ落ち、さびを生じた鉄材が現れています。目につきやすい水平面では黒い塗膜層の喪失が広範囲に進み、白色の下地塗料の露出が顕著になっています（3）。できるだけ早く塗装を更新する必要があります。

また動物による常習的な尿かけが原因と思われる腐食が、作品下方の特定個所に進行しています。さびが塗膜を浮き上がらせ、剥落させている部分が拡大しています。目立たない下面には層状のさびが幾重にも激しく形成されて、大きなさびの破片が落ちはじめています（4）。この腐食は作品にとって深刻なダメージとなることが懸念され、これを迅速に処置しなければなりません。

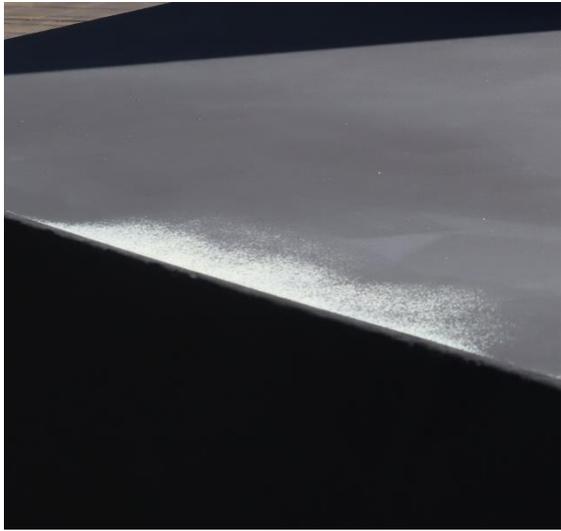
単純な形態の構成が際立つ《アマリリス》は彫刻プロムナードにおける要です。その修復、再塗装と腐食個所の防錆は、プロムナード全体を整備する上で喫緊の課題です。



(1)



(2)



(3)



(4)

■清水九兵衛《地簀》(ちかんざし)



作品について

彫刻プロムナードにある清水の《地簀》(ちかんざし)はシンプルな形をしていますが、表面には微細な凹凸があって、実は表情豊かな作品です。清水は、親和などを意味する「AFFINITY」という言葉で自作を説明していて、作品と周りの空間がなじむことが意図されています。盛り上がった地面から立ち上がるような本作品は、周囲の緑を背景に、赤色が映える(はずの)ものとなっています。

残念ながら、現在では塗装が剥がれ、さびも出てきて、存在感はあまりないかもしれません。清水が彫刻プロムナードのために制作した、たった一つしかない彫刻作品です。本来の姿をご覧いただけることを願っております。

清水九兵衛(きよみずきゅうべえ)とは

清水九兵衛は、1922(大正11)年生まれの彫刻家です。アルミニウムを素材とした抽象彫刻で知られ、野外作品を多く手がけました。陶芸家・七代清水六兵衛としての顔も持っています。1950年代から陶芸を発表していましたが、1960年代後半、彫刻に転向します(1968年から清水九兵衛の名前を使用)。1980年、六代清水六兵衛の急逝に伴い、七代を襲名しました。第3回彫刻の森美術館大賞受賞(1977年)、第7回須磨離宮公園現代彫刻展大賞受賞など、受賞多数。

専門家からのご意見 藤岡五郎(清水九兵衛助手)

私は藤岡五郎と申します。1989年に金沢美術工芸大学を卒業し、同年から2006年に清水先生が逝去されるまで助手を務めました。先生の逝去後は制作に関する図面や資料の分類・整理、全国に設置されている清水作品を修復する活動などを続けています。

清水先生の野外彫刻作品の数は日本国内だけでも80以上に及んでいます。初期の作品は、アルミ表面に「ヘアライン仕上げ」と呼ばれる模様を付けた後、透明塗料を塗装していましたが、傷付いた際の修復に苦労されたようです。その為1980年代からは作品に朱色の塗装を施すようになりました。ただ、アルミの質感を重要視していた先生は、全て朱色で覆ってしまわず部分的に色を剥がしてアルミが見えるような工夫をしました。作品を近くで見ると、朱色とシルバーがハレーションを起こしてその鮮やかさにハッとさせられます。ちなみにその朱色というのは既成色ではありません。京都でよく見られる鳥居の朱色に近い赤色であった事もあり「京都レッド」と名付けられています。

「地簀」は前回の塗り替えから既に30年が経過しています。表面の塗料は多くの部分で剥離し、アルミ素地部分にも白さびが発生しています。一般的に外壁塗装は10年から20年で塗り替えることが推奨されています。特に赤系の色の材料となる顔料は他の顔料と比べて紫外線の影響を受けやすく、退色が起きやすいといわれています。ぜひ、オリジナルの「京都レッド」で「地簀」をよみがえらせることができますよう、よろしくご依頼申し上げます。



3 寄付金の使い道

トニー・スミス《アマリリス》の修復費 約360万円

清水久兵衛《地響》の修復 約240万円

その他植栽やベンチなどの整備 約400万円

- ・目標金額に達しなかった場合も、本プロジェクトに活用させていただきます。
- ・目標金額以上の寄付をいただいた場合、より過ごしやすく、心地よい散歩道の整備に活用させていただきます。

【事業実施のスケジュール】

2024年度下旬 作品の修復、のち公開

4 寄附の方法・返礼品について

- ・クラウドファンディングページ URL

<https://www.furusato->

[tax.jp/gcf/3146?utm_source=shizuokaken&utm_medium=referral&utm_campaign=lgmk_22000](https://www.furusato-tax.jp/gcf/3146?utm_source=shizuokaken&utm_medium=referral&utm_campaign=lgmk_22000)

- ・クラウドファンディングQRコード



■ 寄附のみの方・静岡県にお住まいの方

このプロジェクトへのご寄附は、静岡県にお住まいの方でも、ふるさと納税制度の対象です。個人の方の場合、一定の限度内で寄附を行うと、2000円を超える部分について、所得税や住民税の還付・控除が受けられます。芸術や緑豊かな憩いの場を守るために、ふるさと納税で支援したい。そんな思いをお持ちの方は、ぜひご支援をお願いいたします。

返礼品が不要で寄附のみの方や、静岡県にお住まいの方は、「ふるさと納税で応援」ボタンからご寄附ください。

■ 感謝の品（返礼品）のご紹介

静岡県外にお住まいの方には、感謝のお品（返礼品）をご用意しました。

数量限定のオリジナルグッズをはじめ、高額寄附者様には当館一番人気の貴重な作品・伊藤若沖の《樹花鳥獣図屏風》の特別鑑賞会まで、静岡県立美術館ならではのプランを寄附金額に応じてお選びください。

感謝のお品をご希望の方は、「お礼の品を選んでこのプロジェクトへ寄付をする」のボタンからご寄附ください。

※ふるさと納税の制度上、静岡県にお住まいの方はお礼の品（返礼品）を受け取ることができません。

■ インターネットでのお振込みが困難な方

ご連絡をいただけましたら郵便局の払込取扱票を郵送いたします。

（静岡県立美術館企画総務課 054-263-5755 soumuPMA-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp）

※ご支援いただきました皆さまのお名前をホームページ又は館内に提示させていただきます。（ご希望の方のみ）

メッセージ

静岡県立美術館 館長 木下直之



彫刻プロムナードは美術館の誕生とともにありました。広場や庭園など屋外の演奏会がプロムナードと呼ばれるように、この坂道を上るところから、すでに美術館は始まります。2年後に、当館は開館40周年を迎えます。

さらに40年後、100年後へと美術館をつないでいくことが、私たちの使命です。この大切な仕事に、皆さまのお力をお貸しください。彫刻プロムナードをよみがえらせ、坂道で過ごす皆さまの時間が楽しいものになりますようにします。

ご利用のお客様から寄せていただいた思い出のエピソード

プロムナードのアートと自然は、開館前から整備が行われ、世代を超えて楽しまれてきました。ご利用されているお客様から寄せていただいた、思い出のエピソードをご紹介します。

お客様から寄せていただいた

思い出の エピソード

披露宴のオープニングムービーの撮影で散歩道等を使用し、思い出に残る披露宴を演出することができた。
陽の当たる坂道さま

美術館が出来た頃、当時小学生だった3人の子どもがプロムナードのお散歩をとても喜んでいました。彫刻の1つ1つに興味を持っていたようでした。今は親子三代で美術館を楽しんでいます。

JUNさま

駅を降りて坂を上り、彫刻プロムナードが見えてきたら、もう少しで美術館のモチベーションが一気に高まる。あの散歩道を通るたび、そんなワクワク感を感じることができる。

西大井のエースさま

彫刻プロムナードは坂道なので、真夏は歩く大変ですが、その大変さが和らぐ豊かな緑や素敵な彫刻が見えます。

たけさま

プロムナードを歩きながら図書館や美術館に行っていました。花は少ないですが、緑の空間はとても美しく、晴れの日はもちろんのこと、雨の日でも静かな緑の空間を歩きながらとてもリフレッシュできました。彫刻も具象、抽象と丁度いい間隔で配置されており、周囲の景観になじむものが多いと思っています。

自然が相手なので大変だとは思いますが、彫刻を邪魔するくらいの背丈に伸びてしまった雑草が多々あり、それが非情に残念だと感じます。キレイに刈り込まれた芝生と雑草のない空間が保たれてこそ、彫刻の作品が一番映えるのではないのでしょうか。私はあのプロムナードは大好きです。

まるはさま

草薙は緑の丘」と地元の小学校の校歌に謳われていますが、その象徴的存在が園地ではないでしょうか。春の風の薫り、夏の木陰、秋の枯れ草、冬の富士山の眺望などウエルネスに富み前向きな気持ちにさせてくれます。心が疲れたときや友と大事な話をしたいときにプロムナードを散策し、小道に癒やされ、彫刻や木々からパワーをもらいました。ログン館の上の小道は特に好きな場所です。

ケンケンさま

自然の中にある彫刻作品は、誰もが気兼ねなくアートに触れていただける貴重な場所です。その作品と環境を守り、より良い状態で次世代へと伝えていくために、いま成すべき修復と整備を実施したく、ご寄附をお願い申し上げます。

静岡県立美術館

TEL : 054-263-5755 / FAX : 054-263-5742

E-mail : soumuPMA-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp